

# CHACONNE

DEALERS OF FINE VIOLINS



Matteo Goffriller

Domenico Montagnana

シャコンヌでは、楽器をはじめケースや部品等を直輸入し、当社の優れた技術で修復、調整の上御紹介しております。また、これらすべての商品に大変お求めやすい独自のシャコンヌ・プライスを設定しております。高額の楽器、弓に対しては可能な限りの責任を意味する当社の鑑定書を発行し、買取り下取りを保証しています。



Giuseppe Guarneri del Gesu Giuseppe Antonio Rocca

東京海上、千代田火災から認可された保険代理店として万一の事故、盗難に備えた動産総合保険をサービス致します。室内楽コンサートの主催、当社スタジオにおける公開レッスン、弦楽に関する楽譜や書籍等もご利用下さい。また、関連会社カノンでは演奏会・コンサート等においてご利用いただける最高級名器をリーズナブルな料金にてレンタルいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

## (株)シャコンヌ

楽器直輸入・修理、調整  
楽譜・鑑定・楽器保険  
楽器レンタル

## (株)シャコンヌ

【名古屋本店】名古屋市中区大須3丁目31-22 明治生命上前津ビル4F ☎052(241)1779  
【東京吉祥寺店】東京都武蔵野市吉祥寺本町1-31-11 K Sビル9F ☎0422(23)1879  
【金沢店】金沢市香林坊2丁目12-20 シャトル香林坊504号 ☎0762(21)1779  
【九州小倉店】北九州市小倉北区京町4-5-27 ステーションプラザ小倉駅前5F ☎093(531)2672  
【札幌店】札幌市中央区北3条西1丁目1-1 ナショナルビル2F ☎011(221)2561  
【株カノン】名古屋市昭和区隼人町9-1 ロイヤル秋中2F ☎052(834)4911  
北京弦芸楽器有限公司(ストリング・アート・カンパニー) 北京・中央音楽学院内

営業時間 10:00~18:30 月曜定休(九州小倉店:月・火定休、金沢店・札幌店:日・月定休)

# ザ・シンフォニエッタ第9回演奏会

# THE SINFONIETTA 9TH CONCERT

A. VIVALDI  
The Four Seasons

F. MENDELSSOHN  
Italian

- 1997年9月21日(日)開場P.M.2:00—開演P.M.2:30
- 熊本県立劇場コンサートホール
- 主催/ザ・シンフォニエッタ ●助成/熊本県、(財)熊本県立劇場
- 後援/熊本市、熊本日日新聞社、RKK、NHK熊本放送局

●ヴィヴァルディ作曲  
協奏曲集「四季」作品8

チェロ独奏／篠崎 由紀  
チェンバロ／篠原いづみ

休憩

●メンデルスゾーン作曲  
交響曲第4番イ長調作品90「イタリア」

ヴァイオリン独奏及び  
コンサートマスター／篠崎 史紀  
管弦楽／ザ・シンフォニエッタ

ごあいさつ

GREETING

本日は、私共ザ・シンフォニエッタの演奏会にお越し頂きまして誠に  
ありがとうございます。

皆様方の温かいご支援を賜り、私共の演奏会も9回目を迎えることが出来ました。今回は、この4月からNHK交響楽団のコンサートマスターに就任された篠崎史紀氏を独奏とコンサートマスターにお迎えしての演奏会です。篠崎氏には第6回演奏会のメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲で共演して頂いていますが、今回4年ぶりに私共の演奏会にお迎えすることができます。同氏にはザ・シンフォニエッタの結成以来、何度も御指導を頂いており、今回久々にステージでご一緒できることをメンバー一同非常にうれしく思い、本日まで練習に励んで参りました。

ヴィヴァルディはともかくメンデルスゾーンの交響曲を指揮者なしで演奏するという、私共にとっては、ちょっとした冒険を行うため、時間をかけて練習を積んで参りましたが、何分力不足のため、いたらない部分もあるかと存じます。けれども、私共の演奏を通してヴィヴァルディ、メンデルスゾーンの音楽のすばらしさを皆様にお伝えすることができると信じております。おひとりでも多くの方にご満足頂けますよう心をこめて演奏いたしますので、どうぞお楽しみください。

末筆になりましたが、私共のために温かい御協力・御支援を下さいました皆様方に心より深くお礼申し上げます。

ザ・シンフォニエッタ 代表 清永健介



篠崎 史紀  
(しのざき ふみのり)

1963年生まれ。3歳より、父・篠崎永育氏にヴァイオリンの手ほどきを受ける。その後、故田中令子、江藤俊哉、トーマス・クリスチャン、イヴリー・ギトリス各氏に師事。また、パリリ・カルテット、アマデウス・カルテットの各メンバーに室内楽を学ぶ。早く天賦の才能を發揮し、毎日学生音楽コンクール全国第1位。1979年、北九州市民文化賞を史上最年少で受賞し注目をあびる。1981年よりウィーン市立音楽院に留学。1982年ウィーン・コンツェルトハウスにてウィーン・コンセルヴァトリウム・オーケストラと協演し、ウィーンデビュー。「信頼性のあるテクニック、遊び心もある音楽性」(ヴィナーツァイトゥング紙)「真珠をころがすようなまるく鮮やかな音色、魅惑的な音楽性」(フォルクスシュティンメ紙)など好評を得る。第34回ヴィオッティ国際音楽コンクール室内楽部門(デュオ)で第3位入賞。第20回ボルドー国際音楽祭で銀賞を受賞。その後オーストリアを中心に活動し、現在までにアメリカ、ノルウェー、フランス、イス、中国などの音楽祭より招待を受け、また、シュラードミング・フェスティバルではトーマス・クリスチャン氏のアシスタント・プロフェッサーも勤めている。1988年ウィーン市立音楽院を修了後帰国、群馬交響楽団コンサートマスターを経て、1991年から読売日本交響楽団コンサートマスターとして活躍。1997年4月よりNHK交響楽団の新コンサートマスターに就任。今後の更なる飛躍が期待されている。NHK交響楽団、読売日本交響楽団をはじめとする全国主要オーケストラとの協演、ソロリサイタルのほか、室内楽にも情熱を注ぎ、ハレー・ストリング・カルテット、アンサンブルSAKRAのメンバーとして、毎回のコンサートが話題になる。完璧なテクニックはいうまでもないが、パッション溢れる美音は他の追従を許さない。演奏活動の傍ら、後進の育成にも力を注ぎ、東京ジュニアオーケストラ・ソサイエティの芸術監督としてその育成にあたっている。また、「篠崎史紀ロマンティックアルバム」「アレンスキー・ピアノトリオ」「アレンスキー弦楽四重奏」「ドヴォルザーク弦楽四重奏」のCDも好評を博している。

## 曲目紹介

## INTERPRET

●協奏曲集「四季」作品8 (ヴィヴァルディ 1678~1741)

協奏曲第1番ホ長調「春」第1楽章 アレグロ

春がやってきた  
小鳥達が陽気な歌で春に挨拶する  
西風の息吹に泉は、  
優しくささやきながら溢れ流れる  
大気を黒いマントで覆いつつ、稻妻と雷鳴が選ばれ、  
春の訪れを告げにやってくる  
嵐が静まるとき小鳥達は、  
うつとりとするような歌を再び奏で始める

第2楽章 ラルゴ

そして花咲く心地よい野では  
草木の葉ずれの親しげなささやきに、  
牧者が忠実な犬を傍らにまどろむ

第3楽章 アレグロ (田園舞曲)

田園風バグパイプの陽気な調べに合わせ、  
ニンフと牧者はお気に入りの場所で、  
まばゆい春の訪れに踊る

## 協奏曲第2番ト短調「夏」 第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポーアレグロ

太陽のやけつく厳しい季節には、  
人も家畜の群れもけだるく、松の木は干上がる  
かっこうが鳴くと耳ざとく聞きつけて  
きじばとやしきひわも歌う  
西風の精が優しく吹く  
が、その隣で突然、北風が競うように動く  
牧者は、荒々しい北風が止むときの、  
自分の運命を心配して嘆く

### 第2楽章 アダージョ-プレスト-アダージョ

稻妻と荒々しい雷鳴への恐れと、  
怒り狂ったハエやアブの群れのために、  
彼は疲れた四肢を休められない

### 第3楽章 プレスト (激しい夏のテンポで)

ああ彼の心配が現実となったとは余りのこと  
天は雷鳴を鳴らし、  
雷を落とし、ひょうを降らせて、  
穂や誇らしげな麦の先を叩き落とす

## 協奏曲第3番ヘ長調「秋」 第1楽章 アレグロ (村人たちの踊りと歌)

若者は踊りと歌で、  
豊かな収穫の喜びを祝う  
バッカスの飲物で紅潮した大勢の者達は  
楽しみの果てに眠り込む

### 第2楽章 アダージョ・モルト (眠っている酔漢)

和らいだ心地よい大気は  
人々の歌と踊りを中途で止めさせる  
大勢を快い眠りの楽しみに  
誘うのがこの季節

### 第3楽章 アレグロ (狩)

夜があけると狩人達は、  
角笛と猟銃を持ち、犬を連れて狩に出かける  
獣が逃げ、狩人達がその後を追う  
騒がしい猟銃の音と犬の吠え声に、  
驚き疲れた獣は、傷つきおびえる  
逃げ疲れ、打ちのめされて息絶える

## 協奏曲第4番短調「冬」 第1楽章 アレグロ・ノン・モルト

冷たい雪の中で  
過酷に吹き付ける恐ろしい風に凍え震える  
絶えず足を踏みつけて走り  
余りの寒さに歯の根が合わない

### 第2楽章 ラルゴ

外はすっかり濡れそぼっているが  
火のかたわらで静かな満ち足りた日々を過ごす

### 第3楽章 アレグロ

氷の上を歩く 転ぶといけないので  
ゆっくりとした足取りで、注意深く  
急いで、足を滑らせ、転ぶ  
再び氷の上を歩き、急いで走ると  
氷が砕けて飛び散る  
東南の風、北風、すべての風達が争って  
閉じた扉から入ってくる音がする  
これが冬・・・しかしこうして冬は喜びをもたらす

## ●交響曲第4番イ長調作品90「イタリア」 (メンデルスゾーン 1809~1847)

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ  
第2楽章 アンダンテ・コン・モート  
第3楽章 コン・モート・モデラート  
第4楽章 サルタレッロ (プレスト)

### 解説にかえて

#### -篠崎史紀氏とメンバーの会話から-

A 今回の演奏会の特徴は指揮者がいないということなんですが、指揮者がいる場合との違いはどういうところにありますか。

篠崎氏 (以下、S) 指揮者がいるかいないかというの、知らない曲を演奏する場合は非常に重要。よく演奏されるような曲の場合には、音楽の方向性がとれない場合に必要で、なぜかというと、演奏者が皆まったく同じ音楽を考えるというのは、まず不可能で、それをひとつの方向へまとめるのが指揮者なんだ。リズムやテンポを合わせるのはみんなでよく聞き合ってやれば合うんであって、そういう意味だけでは指揮者は必要ないんだ。ただ、オーケストラのサイズが大きく大きくなってしまうと音楽の方向性の收拾がつかなくなってしまう、そこに指揮者が必要になるわけ。今回の演奏会の場合、方向性を取るという意味では、それをやる人(指揮者)がいないわけだから、皆が全く同じ考え方で演奏するしかない。そこに難しさがある。結局、手綱を引く人がいないわけだから、それぞれが責任を持ってやらないと音楽が崩壊する可能性はあるね。でも、指揮者がいるときだって、よほどのことがない限り指揮者だけを見るってことはないでしょう。結局音楽は「見て」決めるものじゃなくて「感じて」決めるものだから、皆で一緒に感じて演奏することが大切だね。

A 「四季」についてですけど、これには春・夏・秋・冬それぞれに詩がついていて、今回練習してみて、改めてその音楽による描写の面白さを認識しながらおしたところなんです。ところで、今ではヴィヴァルディ、というよりバロック音楽といえば古楽器による演奏が盛んで、人によっては、古典派以前はその時代の楽器で演奏するべきだという考え方もあるようですが、その辺はどう思われますか。

S 僕から言わせてもらうと、バロックはバロック時代の楽器で「やらなければいけない」いう言い方はある意味ではナンセンスで、その考え方でいけば、その時代と全く同じような会場を造ってそこで演奏しないといけない。今は会場のスタイルも大きさも全然違うんだから。要するに時代のニーズに応じて楽器が変わっているわけで、管楽器にしろピアノにしろ音程は良くなってるし音量も出るし。ベートーヴェンも今のようなピアノがあったらもしかしたらあんなに「f」(フォルテ:強く・大きく)をいっぱい楽譜に書かなかつたかも知れない(注:ベートーヴェンの曲には、しつこいくらい「f」が書いてあります)。まあ、好みの問題じゃないかな。両方ともそれぞれの考え方で、どちらの楽器を使って演奏してもいいと思うよ。それでなきや「だめ」というのは違うと思うな。当時のやり方を再現するということになると、ヴィヴァルディ自身演奏のたびに楽譜に書き込みを加えたりしていて、どれが正しいかというのは本当に難しい。ただ、僕たちがその時代のやり方を全然知らないというのは寂しいことで、演奏様式というのも考えないといけないことなんだけど、バロックの奏法というのは現代楽器にはそぐわないからバロックの奏法で弾く必要はないし、いろんなことを知ったうえで、自分のやりたい演奏をするのは全く間違ったことじゃないと思うよ。

A 「イタリア」についてですが、この曲はメンデルスゾーンがイタリアの何を描写したというのじゃなくて、イタリア滞在時の印象を交響曲にしたということらしいんですが、メンデルスゾーンという人はドイツで生まれ育った人で、篠崎さんの場合はウィーンで勉強されていて、ドイツとオーストリア

という違いはあるんですが、ヨーロッパのあのあたりから見た「イタリア」というのはどういう所なんですか。

S 「憧れの地」だね。とにかく「青い空」でしょ。海があるし、暖かいし。アルプスの山を超えた途端に真っ青な空が広がる。とにかくドイツ人にとっては憧れの地だよ。「明るさ」に対する憧れみたいなものをずっと持っている。

A 第1楽章の出だしなんか、それがよく表われていると思います。

S そうそう。目いっぱい陽気で。

A 楽章ごとの性格がかなりはっきりしていますよね。第4楽章のサルタレッロとか。

S 華やかだよね。タランテラ風で。

B 「タランテラ」というのはタランチュラ（毒グモ）にかまれたときこれを踊ると毒がぬけるという伝説から生まれた舞曲で現実ばなれして狂喜乱舞、踊り狂うやつらしいですよ。

S 第4楽章が「狂喜乱舞」になつたら困るけど。

C 私は第2楽章のメロディーが好きです。

A 第2楽章の最初のメロディーは、まずヴィオラとオーボエとファゴットがやって、それと全く同じメロディを今度はヴァイオリンがやるんですけど、同じメロディなのに男性と女性というか、感じが全然違いますよね。

S あれだけ美しいメロディを2回繰り返して書けるということ自体がすごい。それとメンデルスゾーンのすごいところというのは、何もないところからいきなり主題が出てくるところ。第1楽章もそうだし、第3楽章も。ヴァイオリン協奏曲もそうでしょう。演奏する方はこわいよ。

D 僕は以前から「イタリア」という曲は好きだったんですけど、それは第2楽章が好きだったんです。第1楽章がイタリアの「光」ならば第2楽章はイタリアの「陰」という感じがして。地中海の青い海と空があって、白い壁の家々があって、そこに落ちる深い陰がある。そういうところが第2楽章だと思うんです。そしてそのあとに穏やかな第3楽章がくる。それから第4楽章ではああいう激しい舞曲で断ち切るように終わってしまう。いい曲ですね。

S 全体的におしゃれな曲だよね。

話しあはまだ続いたのですが、このようにそれぞれが自分の思いを込めて皆で演奏します。どうぞお楽しみください。

## 出演者名簿

## REGISTER

●コンサートマスター  
清永健介  
廣瀬 卓

●第1ヴァイオリン  
大宮伸二  
岡田江身子  
定永明子  
佐藤弘美  
西山幸代  
古市敬子

●第2ヴァイオリン  
上田浩子  
清永育美  
須藤 保  
東家容子  
中村友美  
蓮池加奈子  
山下純子

●ヴィオラ  
和泉希代子  
太田由美子  
高橋正治  
田代典子  
田中誠一郎  
中村衣井子

●チェロ  
上田哲生\*  
篠崎由紀\*  
佛淵かつよ\*  
松本幸二

●コントラバス  
平川和秀\*  
遊川伊知郎  
吉田真紀

●フルート  
田島公敏  
外岡紀子\*

●オーボエ  
橋 徹  
吉田千草

●クラリネット  
府高明子  
山下クミ

●ファゴット  
柴田義浩  
星出和裕

●ホルン  
伊藤友美  
猪野敬一郎

●トランペット  
出口文教  
福島敏和

●ティンバニ  
福島 好\*

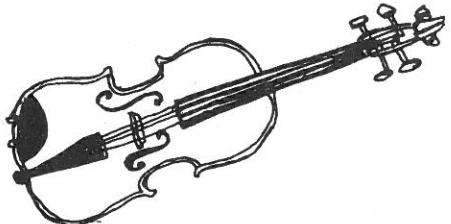
●チェンバロ  
篠原いづみ

●副指揮  
山本俊之

\*は賛助出演

## バイオリンって 楽しいですよ

広瀬バイオリンスクール神水教室では  
3才~70才の方々がバイオリンを  
楽しんでいらっしゃいます  
ぜひ、あなたもバイオリンを弾いてみませんか



広瀬バイオリンスクール神水教室  
熊本市神水1丁目8-9 みのりマンション402  
TEL & FAX.096-385-9819

指導 広瀬 卓

日本弦楽器指導者協会会員  
The Sinfoniettaコンサートマスター

祝 ザ・シンフォニエッタ演奏会

サイレント・シリーズ大好評発売中  
サイレント・バイオリン、チェロ  
サイレント・プラス  
サイレント・ピアノ.....

伝統と信用で郷土の音楽文化を育てます  
**(株)大谷楽器**  
〒860 熊本市上通7-1 ☎096-355-2248

## 本格派ビアレストラン

BEER RESTAURANT  
**オーデン**

熊本市下通1丁目9-8  
銀座ビル1F  
☎(096)325-9230



## こころ華やぐ 上質な時間

**三井ガーデンホテル熊本**  
〒860 熊本市紺屋町1-20  
Tel(096)352-1131代

## 結婚式二次会は



熊本市上通り黒鍬町7-29 ☎096-325-8611

**壱之倉庫**

ICHINO SÔ KÔ  
(120名様迄)  
熊本市上通り歩小路2-8 ☎096-325-3911

## 次回のご案内

## INFORMATION

### ザ・シンフォニエッタ第10回演奏会

- ◆とき：1998年6月21日（日）
- ◆ところ：熊本県立劇場コンサートホール

指揮：藤崎 凡

G R A P H I C

DESIGN SCHOOL ALPHA

5-24-86 SHIMASAKI KUMAMOTO-CITY, 860

TEL:096-324-2742  
FAX:096-324-7393

D E S I G N

**ALPHA ART**